開港17周年を迎えて

新東京国際空港公団　広報室

1.　はじめに

成田空港（新東京国際空港）は，昭和53年５月開港以来，今年で17周年を迎えることができた。これまでさしたる事故もなく，我が国の空の表玄関としてその役割を果たして参ることができたことは，これもひとえに関係者の皆様の深いご理解とご支援の賜と厚くお礼申し上げます。

平成６年度は，９月に関西国際空港が供用したのをはじめ，地方空港の国際化が進むなど，成田空港を取り巻く情況は大きく変化し，平成７年１月には，歴史的にも大惨事になった阪神大震災がおこり航空業界にも直接的・間接的に影響を及ぼした。

一方，成田空港問題についてはご高承のとおり，昨年10月の第12回円卓会議において，隅谷調査団から示された最終所見をすべての関係者が受入れることによって幕を閉じ，新たな局面に入っている。空港公団としては，これからもさらに安全な空港運用に努めることはもちろん，これまでの空港づくりの反省のうえに立って，誠意をもって話し合いを行い，用地取得や騒音・移転問題の解決に全力を尽くし，地域と共生できる成田空港の整備運営に積極的に取組むこととしている。

2.　世界における成田空港の位置づけ

現在，成田空港に国際線で乗入れている航空会社は

写真-1　第１旅客ターミナルビル（左手前），第２旅客ターミナルビル（右）

38カ国50社となっている。そして平成6年11月現在で世界の40カ国98都市と直行便（同一便名による運航で，貨物便を含む）で結ばれ，国際航空路の一大拠点空港として成田空港の役割は，経済，観光その他種々の国際交流の活発化とあいまってさらに高まってきており，運用面においても常に世界のトップランクの実績を上げている。

ICAO（国際民間航空機関）の1992年（平成4年）世界の空港国際線ランキングによると，国際線航空機発着回数では第13位（前年11位）にあるものの，国際線旅客数で第5位（前年5位），また国際線貨物取扱量では第1位（7年連続）となっており，特に国際線貨物取扱量では2位以下を大きく引き離し，世界一の地位を不動のものとしている。

国際線発着回数が第13位とランクが低くなっているのは滑走路1本での運用による発着回数の制約によるものであるが，航空会社各社は増大する航空需要に対して大型機を投入することで対応しており，平成5年度の機材構成比では国際旅客便でB-747型クラスが全体の76%と前年よりシェアをさらに3ポイント高めて

第1表　成田空港への乗入れ航空会社等

（1）定期乗入れ航空会社（国際線：38ケ国・50社、国内線：2社、平成7年3月26日現在）

国名	航空会社名	コード名	備考
アメリカ	アメリカン航空	AAL	
	コンチネンタル・ミクロネシア航空	CMI	
	デルタ航空	DAL	
	ノースウエスト航空	NWA	
	ユナイテッド航空	UAL	
	フェデラルエクスプレス	FDX	貨物専用航空会社
	ユナイテッド・パーセルサービス	UPS	貨物専用航空会社
イギリス	ブリティッシュ・エアウェイズ	BAW	
	キャセイパシフィック航空	CPA	
	ヴァージンアトランティック航空	VIR	
イタリア	アリタリア航空	AZA	
イラク	イラク航空	IAW	運休中
イラン	イラン航空	IRA	
インド	エア・インディア	AIC	
インドネシア	ガルーダ・インドネシア航空	GIA	
エジプト	エジプト航空	MSR	
オーストラリア	カンタス・オーストラリア航空	QFA	
オーストリア	オーストリア航空	AUA	
オランダ	KLMオランダ航空	KLM	
カナダ	カナディアン航空	CDN	
韓国	大韓航空	KAL	
	アシアナ航空	AAR	
ギリシャ	オリンピック航空	OAL	運休中
シンガポール	シンガポール航空	SIA	
スイス	スイス航空	SWR	
スペイン	イベリア・スペイン航空	IBE	
スリランカ	エアランカ航空	ALK	
スウェーデン デンマーク ノルウェー	スカンジナビア航空	SAS	
タイ	タイ国際航空	THA	
中国	中国国際航空	CCA	
	中国東方航空	CES	
トルコ	トルコ航空	THY	
ドイツ	ルフトハンザ・ドイツ航空	DLH	
ニュージーランド	ニュージーランド航空	ANZ	
パキスタン	パキスタン航空	PIA	
バングラディシュ	ビーマン・バングラディシュ航空	BBC	
フィジー	エア・パシフィック航空	FJI	
フィリピン	フィリピン航空	PAL	
フィンランド	フィンランド航空	FIN	
ブラジル	ヴァリグ・ブラジル航空	VRG	
フランス	エールフランス国営航空	AFR	
ベルギー	サベナ・ベルギー航空	SAB	
マレーシア	マレーシア航空	MAS	
レバノン	トランス・メディタレニアン航空	TMA	貨物専用航空会社
ロシア	アエロフロート・ロシア国際航空	AFL	
日本	日本アジア航空	JAA	
	日本航空	JAL	（国内線も運航）
	日本貨物航空	NCA	貨物専用航空会社
	全日本空輸	ANA	（国内線も運航）
	日本エアシステム	JAS	

※ ……は、第1旅客ターミナルビル入居航空会社
※平成7年3月26日にAOMフランス航空（AOM）が撤退したため乗入れ航空会社数は1減で38カ国50社になった。（乗入れ国数は変わらず）

（2）日本への乗入れ希望国（40カ国・平成7年3月17日現在）

1	アフガニスタン	9	アイルランド	17	モーリシアス	25	ポルトガル	33	チュニジア共和国
2	ブルガリア	10	イスラエル	18	マーシャル諸島	26	カタール	34	ウガンダ
3	カンボジア	11	ジャマイカ	19	モロッコ	27	モルジブ共和国	35	アラブ首長国連邦
4	チリ	12	ケニア	20	ナウル	28	ルーマニア	36	ウルグアイ
5	コロンビア	13	ラオス	21	オマーン	29	サウジアラビア	37	ユーゴスラビア
6	チェコスロバキア	14	ルクセンブルク	22	パナマ	30	セーシェル	38	ザイール
7	エチオピア	15	マダガスカル	23	パプアニューギニア	31	バーレーン	39	西サモア
8	グアテマラ	16	マルタ	24	ポーランド	32	タンザニア	40	ヴァヌアツ共和国

（3）参考

ターミナル別入居航空会社	
第1	14社
第2	32社
貨物専用	4社
計	50社

第2表　1992年世界の空港国際線ランキング

(1)発着回数　（単位：千回）

順位	空港名	発着回数	前年比(%)	前年順位
1	ロンドン/ヒースロー	308.1	10.5	1
2	パリ/シャルル・ド・ゴール	257.7	15.6	2
3	フランクフルト・マイン	245.5	12.6	3
4	アムステルダム/スキポール	231.5	16.6	4
5	ブリュッセル・ナショナル	181.6	-2.9	5
6	チューリッヒ/クローテン	171.9	8.8	6
7	コペンハーゲン/カストラップ	158.6	8.1	7
8	ロンドン/ガトウィック	150.5	6.4	8
9	トロント/ピアソン	129.3	-7.6	9
10	マイアミ	125.8	1.7	10
11	シンガポール/チャンギ	125.5	15.5	13
12	香港/啓徳	121.0	10.3	12
13	東京/成田	114.5	1.7	11
14	ミュンヘン	99.6	19.9	18
15	デュッセルドルフ	97.2	9.6	15
16	マドリッド/バラハス	96.7	23.0	22
17	ウィーン/シュヴェヒャート	95.4	16.1	20
18	ニューヨーク/J.F.ケネディ	93.4	-6.3	14
19	バンコク	92.9	7.4	16
20	ストックホルム/アーランダ	91.7	9.4	17
21	ローマ/フィウミチーノ	91.0	9.6	19
22	マンチェスター	89.0	9.7	21
23	ダブリン	81.0	3.4	—
23	パリ/オルリー	81.0	13.8	24
25	ジュネーブ/コアントラン	75.3	5.3	23

(2)旅客数　（単位：千人）

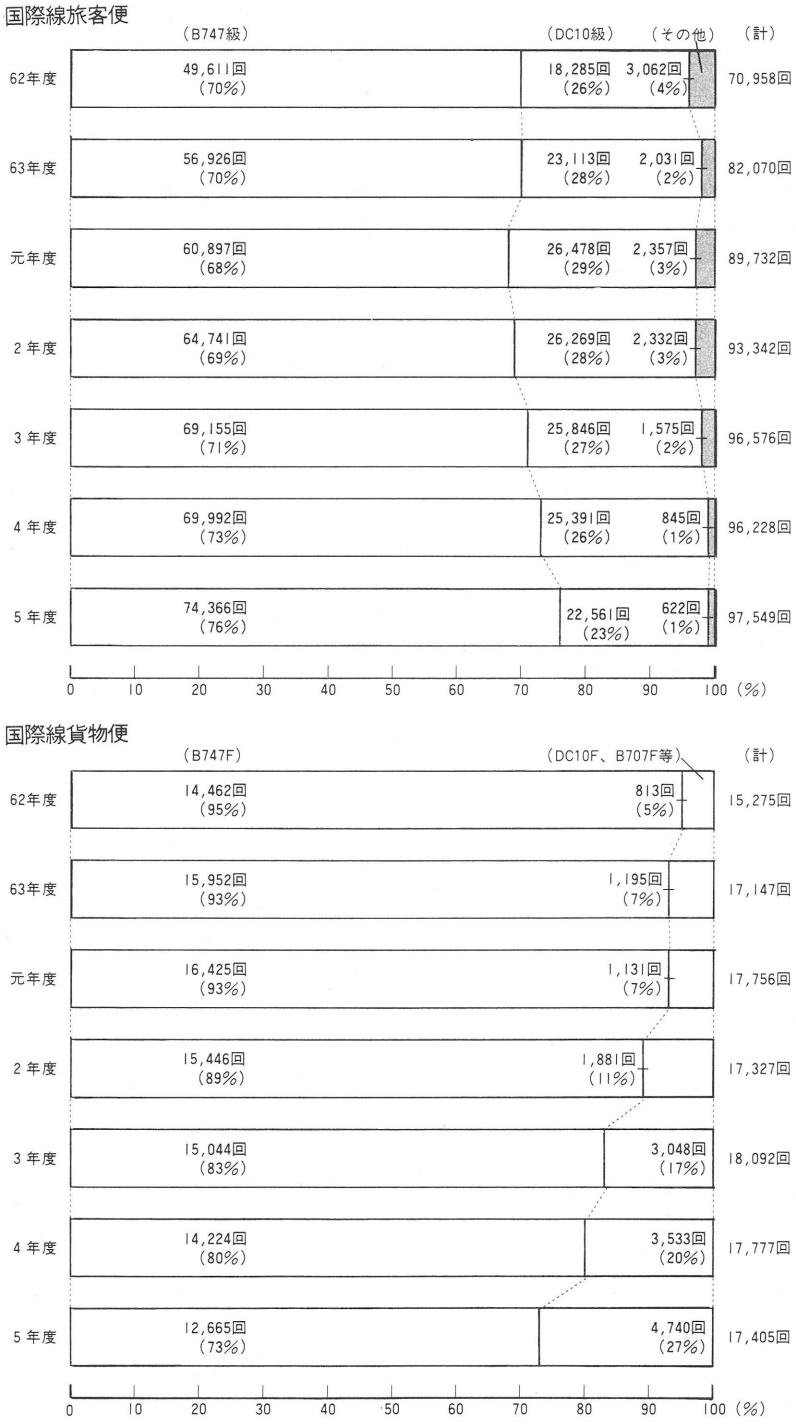
順位	空港名	旅客数	前年比(%)	前年順位
1	ロンドン/ヒースロー	36,257	13.8	1
2	フランクフルト・マイン	23,271	11.6	2
3	パリ/シャルル・ド・ゴール	22,444	15.8	3
4	香港/啓徳	22,061	15.2	4
5	東京/成田	19,022	7.2	5
6	ロンドン/ガトウィック	18,690	5.7	6
7	アムステルダム/スキポール	18,609	15.7	8
8	シンガポール/チャンギ	16,882	12.7	9
9	ニューヨーク/J.F.ケネディ	15,110	-9.4	7
10	チューリッヒ/クローテン	12,007	7.3	10
11	マイアミ	11,514	5.7	11
12	ロサンゼルス	11,456	14.9	13
13	バンコク	11,281	8.7	12
14	台北/中正	10,828	15.7	14
15	パリ/オルリー	9,923	15.3	18
16	ローマ/フィウミチーノ	9,873	20.1	21
17	ソウル/金浦	9,800	8.9	—
18	マンチェスター	9,749	19.0	19
19	コペンハーゲン/カストラップ	9,699	10.9	16
20	トロント/ピアソン	9,553	5.5	15
21	ブリュッセル・ナショナル	9,256	7.3	17
22	デュッセルドルフ	9,098	11.1	20
23	マドリッド/バラハス	8,477	14.2	23
24	バルマ・デ・マヨルカ	8,265	7.7	22
25	ミュンヘン	7,347	16.3	24

(3)貨物取扱量　（単位：千トン）

順位	空港名	貨物取扱量	前年比(%)	前年順位
1	東京/成田	1,287.9	-3.9	1
2	フランクフルト・マイン	989.1	3.3	2
3	香港/啓徳	956.9	12.6	3
4	ソウル/金浦	795.8	17.0	10
5	ニューヨーク/J.F.ケネディ	779.4	-6.2	4
6	マイアミ	754.7	5.2	5
7	ロンドン/ヒースロー	747.8	15.4	6
8	シンガポール/チャンギ	719.0	12.0	7
9	台北/中正	701.6	14.4	9
10	アムステルダム/スキポール	695.0	10.3	8
11	パリ/シャルル・ド・ゴール	585.2	6.8	11
12	ロサンゼルス	470.1	16.3	12
13	バンコク	422.4	8.6	13
14	シカゴ/オヘア	338.2	3.6	14
15	ブリュッセル・ナショナル	313.4	1.8	15
16	チューリッヒ/クローテン	263.3	9.4	16
17	ボゴタ/エルドラド	250.0	23.6	22
18	大阪/伊丹	226.8	-3.4	17
19	パリ/オルリー	222.8	2.7	18
20	シドニー/キングスフォード・スミス	221.4	10.0	23
21	ローマ/フィウミチーノ	207.1	1.0	21
22	テルアビブ/ベングリオン	200.0	-3.7	20
23	サンフランシスコ	191.3	-10.4	19
24	ロンドン/ガトウィック	187.9	-6.3	24
25	トロント/ピアソン	169.7	-1.9	25

（注）ICAO世界民間統計による

第３表　年度別機材構成比の推移



（注）
1. B747級には、B747SP、B747SRを含む
2. DC10級には、MD11、L1011、A300、A310、B767を含む
3. その他は、DC8、B707、B727、IL62等である
4. （　）は、構成比

いる。また，貨物便ではB-747フレイターが73%を占めている。

ところで成田空港は，開港以来順調な運用を続け，一大国際拠点空港としての役割を果たしているが，その地位にも陰りが現れてきていることは否めない。それは成田空港が滑走路１本での限界的な運用を強いられており，スロットの増加が望めないこと，B-747-400型など航続距離の長い機材が出現し，また世界各国が競って空港を整備・拡大し，大型化・近代化を進めていることで，アジア諸国から日本を経由しないアメリカ・欧州方面への直行路線が開設されていること，などが背景にあるためである。特にアジア諸国では，香港，ソウルの新空港建設をはじめ拡張整備が熱心に進められており，アジアの拠点空港としての成田空港を脅かす存在になりつつある。

成田空港がその地理的優位性や日本経済をバックに拠点空港としての地位を確固たるものにするには，平行滑走路及びＡ滑走路と平行滑走路間の地上通路の整備が急務となっている。

3. 日本の空の表玄関としての役割

現在日本において国際定期便が就航している空港は成田空港を含めて20空港ある。これらの空港のなかで成田空港は輸送実績で最大

のシェアを占めており，日本の空の表玄関として重要な役割を担い続けている。

成田空港の運用実績は，航空機発着回数，航空旅客数，航空貨物量ともに堅調な伸びを見せており，全国の空港に占めるシェア（平成５年度）は，航空機発着回数で60.7%，航空旅客数で62.3%，航空貨物取扱量で76.5%と各部門で大半を占めている。しかし，前年のシェアと比べると，航空機発着回数0.4%減，航空旅客数0.3%減，航空貨物取扱量1.7%減と，いずれもダウンしている。これは近年国際化を進めてきた地方空港のシェアが伸びているためと思われる。平成６年９月に開港した関西国際空港がシェアをどのくらい伸ばすかについては，今少し様子を見ないとわからないが，成田空港以外の国際空港では従来なかった大空港が日本の西部にできたことで，日本全体の航空需要の底上げが期待されるところである。

また，海港を含めた日本全国の港別の日本人出国者数（平成５暦年）でも，成田空港は全体の59.7%を，また外国人入国者数でも57.9%とともに約６割を占めている。このように，一部ではシェア低下の動きがあるものの，成田空港に集中する傾向は依然として続いており，日本のなかで重要な役割を果たしていることが数字に表れている。

さらに，成田空港は貿易港（空海港）としても日本のなかで重要な地位を占めている。ここで，貿易港としての成田空港について，少し詳しく述べてみたいと思う。

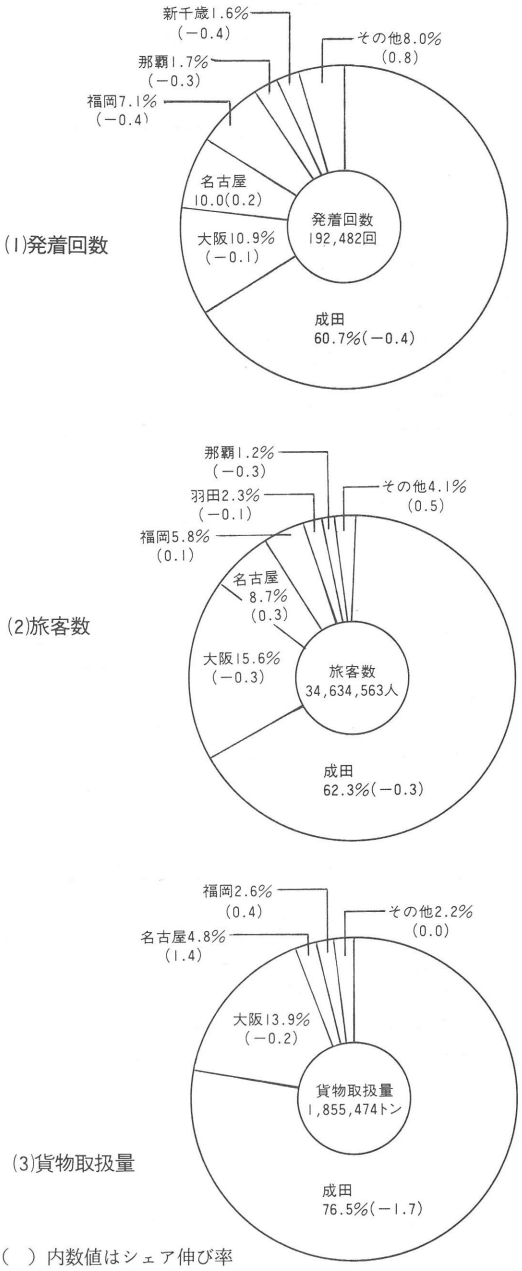
平成６暦年の貿易額（東京税関資料）でみると，総額で９兆6,613億円となり，全国の港別貿易額では昨年まで１位を維持してきた横浜港を抜いて第１位となった。これは全国の貿易額（68兆5,577億円）の14.1%を占めている。

輸出貿易額では，４兆9,858億円と横浜港，名古屋港に次いで第３位（前年第５位）となり，全国の輸出の貿易額（40兆4,917億円）に占める割合では12.3%を占めているほか，全国の輸出航空貿易額（６兆8,412億円）でみると72.9%にもなっている。これらの主な品目は日本の産業構造の高度化を示すように半導体等電子部品，工業機械，事務用機器等の機械機器であり，輸出額全体の約81%も占めている。

輸入貿易額は，４兆6,755億円と第２位の東京港を約１兆2,100億円も離して第１位を維持した。全国の輸入貿易額（28兆660億円）に占める割合は16.7%と高く，全国の輸入航空貨物の貿易額（６兆1,978億円）でも75.4%も占めている。主な品目は半導体等電子部品，事務用機器，通信機器等の機械機器であり，輸入額全体の約60%を占めている。ちなみに重量ベースでは，まぐろ，鮭，野菜，切花などの生鮮貨物が約４割を占めている。

このように日本の空港別の輸出入額では第２位以下

第４表　わが国における成田空港国際線のシェア（平成５年度）



（　）内数値はシェア伸び率

第５表　平成６年全国港別輸出・輸入額

（単位：億円）

順位	輸出 港名	輸出 金額	輸入 港名	輸入 金額	合計 港名	合計 金額
1	横浜港（1）	67,393	成田空港（1）	46,755	成田空港（2）	96,613
2	名古屋港（2）	51,543	東京港（2）	34,652	横浜港（1）	91,147
3	成田空港（5）	49,858	神戸港（3）	24,313	東京港（3）	77,482
4	神戸港（3）	46,712	横浜港（4）	23,754	神戸港（4）	71,025
5	東京港（4）	42,830	名古屋港（5）	16,828	名古屋港（5）	68,371
6	大阪港（6）	16,626	大阪港（6）	15,707	大阪港（6）	32,333
7	清水港（7）	12,703	千葉港（7）	13,818	関西空港（7）	22,001
8	関西空港（9）	12,543	関西空港（8）	9,458	千葉港（8）	18,438

（注）()書は前年の順位である。関西空港の()は伊丹空港である。

＜参考＞

	輸出	前年比	構成	輸入	前年比	構成
全国総額	40兆4,917億円	100.7%	100.0%（100.0%）	28兆 660億円	104.6%	100.0%（100.0%）
海港総額	33兆6,504億円	98.1%	83.1%（85.3%）	21兆8,682億円	102.0%	77.9%（80.0%）
空港総額	6兆8,412億円	116.0%	16.9%（14.7%）	6兆1,978億円	115.2%	22.1%（20.0%）

（注）()書は前年の構成比である。

（注）1．輸入貨物の内生鮮については、日本航空，国際空港上屋からの報告数値（速報値）による。
2．その他輸出・入額（速報値）等については、成田税関支署資料による。

を大きく引き離しており，成田一極集中傾向が続いている。今後関西国際空港がそのシェアを伸ばすものと思われるが，この傾向は当面変わらないものと思われる。これは大生産地であり大消費地である首都圏が後背地として控えていること，そのため旅客便が成田に集中しており，旅客機のカーゴスペースによる貨物輸送力が豊富に提供されていることが利用者にとって路線や便の選択の自由度を高めていることなどの理由によるものと考えられる。

4．成田空港の運用状況（平成６年度）

平成６年度は，航空業界が依然厳しい状態にあったにもかかわらず成田空港の運用実績は世界景気の回復傾向や円高基調を反映して，航空機発着回数，航空旅客数，航空貨物量，給油量の全てが年度ベースで過去最高値を記録した。特に航空貨物量，給油量は，暦年・年度を通じて過去最高値となった。

また，開港以来の運用実績の累計では，航空貨物量が９月に1,500万トン，航空機発着回数が12月に150万回に到達するなど節目の年度となった。

(1) 航空機発着回数

航空機発着回数は，122,624回と平成５年度（122,227回）を397回と僅かながら上回り，過去最高値を記録した。平成６年度実績は開港時（昭和54年度64,925回）に比べ約1.9倍となっているが，12万回を記録した平成３年度からは，ほぼ横ばい状態で推移し，滑走路１本の状況下で処理能力の限界に近い運用が続いている。また，開港以来の累計では12月20日に150万回を記録した。なお，100万回は平成２年11月に記録している。

(2) 航空旅客数

航空旅客数は，23,679,437人（昨年度比＋5%）と2,300万人台を記録し，平成５年度実績（22,646,219人）を約100万人上回り，過去最高値を記録し，開港時（昭和54年度8,156,770人）の約3.0倍にもなっている。

平成６年度の増加の要因は，日本人旅客が昨年度比9%増となったことによるものであるが，これは割安パック料金の浸透などのほか，円高により海外旅行の割安感があることや海外旅行の人気が依然として高い

第６表　成田空港運用実績（暦年）

	●航空機発着回数（回）	●航空旅客数（人）	●航空貨物量（トン）
昭和53年（9.21～）	36,689	4,397,447	240,119
54	64,825	8,106,447	424,790
55	64,914	8,210,019	474,273
56	63,047	8,576,966	508,063
57	63,355	9,016,372	505,021
58	66,414	9,744,782	634,610
59	72,419	10,769,684	714,087
60	76,663	11,700,571	735,796
61	82,274	11,920,148	858,818
62	91,139	14,239,435	1,018,556
63	104,283	17,241,514	1,194,041
平成元年	113,103	19,539,661	1,319,090
2	118,974	21,652,517	1,350,123
3	119,727	20,700,000	1,339,700
4	121,491	22,030,102	1,287,908
5	121,555	22,140,867	1,390,422
6	122,879	23,752,072	1,547,235

※平成６年の航空旅客数は速報値

第7表　空港運用状況（平成6年度）

新東京国際空港公団広報室

区分	S53.5.21～H6.3.31までの計	平成6年 確定 4	5	6	7	8	9	10	11	12	平成7年 値 1	速報値 2	3	年度計	日平均	累計
航空機発着回数(回)	1,410,873	9,993	10,331	10,152	10,574	10,829	10,207	10,358	10,054	10,380	10,128	9,190	10,428	122,624	336	1,533,497
		(102)	(102)	(103)	(101)	(101)	(100)	(99)	(99)	(100)	(99)	(99)	(99)	(100)		
国際線	1,335,703	9,576	9,904	9,734	10,113	10,294	9,779	9,922	9,632	9,925	9,670	8,793	9,994	117,336	321	1,453,039
		(103)	(102)	(103)	(102)	(100)	(100)	(99)	(99)	(100)	(99)	(99)	(99)	(100)		
旅客便	1,084,929	7,964	8,338	8,090	8,456	8,716	8,163	8,262	7,911	8,325	8,304	7,423	8,263	98,215	269	1,183,144
		(103)	(102)	(102)	(102)	(101)	(100)	(100)	(99)	(100)	(100)	(100)	(99)	(101)		
貨物便	221,089	1,423	1,374	1,471	1,508	1,409	1,424	1,501	1,531	1,459	1,207	1,226	1,532	17,065	47	238,154
		(98)	(99)	(103)	(99)	(98)	(96)	(97)	(98)	(98)	(94)	(98)	(99)	(98)		
その他	29,685	189	192	173	149	169	192	159	190	141	159	144	199	2,056	6	31,741
		(143)	(142)	(122)	(111)	(100)	(105)	(80)	(93)	(89)	(93)	(80)	(117)	(104)		
国内線	75,170	417	427	418	461	535	428	436	422	455	458	397	434	5,288	14	80,458
		(99)	(98)	(100)	(91)	(102)	(102)	(101)	(100)	(105)	(101)	(102)	(98)	(100)		
旅客便	65,355	386	400	385	430	496	386	402	386	427	427	360	396	4,881	13	70,236
		(100)	(101)	(99)	(97)	(102)	(101)	(101)	(100)	(102)	(102)	(103)	(99)	(100)		
その他	9,815	31	27	33	31	39	42	34	36	28	31	37	38	407	1	10,222
		(84)	(69)	(106)	(53)	(105)	(114)	(110)	(106)	(187)	(86)	(88)	(86)	(92)		
航空旅客数(人)	225,800,756	1,723,651	1,864,632	1,937,560	2,116,188	2,466,181	2,169,621	1,945,967	1,807,909	1,899,307	1,930,826	1,730,486	2,087,109	23,679,437	64,875	249,480,193
		(108)	(108)	(108)	(109)	(107)	(109)	(105)	(104)	(101)	(104)	(95)	(98)	(105)		
国際線	215,470,543	1,647,042	1,780,990	1,852,482	2,020,765	2,346,769	2,090,668	1,871,787	1,743,217	1,830,134	1,856,163	1,668,689	2,007,783	22,716,489	62,237	238,187,032
		(108)	(108)	(109)	(109)	(107)	(109)	(106)	(105)	(102)	(105)	(96)	(99)	(105)		
日本人	133,582,005	1,059,147	1,214,021	1,257,382	1,381,029	1,718,977	1,568,742	1,275,140	1,215,243	1,286,195	1,329,116	1,187,927	1,472,112	15,965,031	43,740	149,547,036
		(115)	(114)	(112)	(114)	(111)	(114)	(110)	(109)	(104)	(108)	(97)	(100)	(109)		
外国人	53,238,763	432,265	383,186	392,003	440,069	441,421	379,933	435,040	386,323	382,139	358,139	339,745	389,552	4,759,815	13,041	57,998,578
		(98)	(97)	(104)	(103)	(100)	(101)	(98)	(100)	(102)	(101)	(95)	(99)	(100)		
通過客	28,649,775	155,630	183,783	203,097	199,667	186,371	141,993	161,607	141,651	161,800	168,908	141,017	146,119	1,991,643	5,457	30,641,418
		(96)	(98)	(99)	(97)	(98)	(88)	(95)	(88)	(89)	(92)	(88)	(91)	(93)		
国内線	10,330,213	76,609	83,642	85,078	95,423	119,412	78,953	74,180	64,692	69,173	74,663	61,797	79,326	962,948	2,638	11,293,161
		(106)	(102)	(104)	(106)	(105)	(91)	(86)	(79)	(80)	(82)	(73)	(79)	(91)		
航空貨物量(t)	14,338,058	124,645	120,112	132,066	134,230	128,320	136,912	149,152	141,112	138,045	111,169	120,298	147,557	1,583,618	4,339	15,921,676
		(112)	(111)	(118)	(112)	(111)	(110)	(113)	(110)	(111)	(111)	(111)	(110)	(112)		
積込	6,956,325	50,672	48,958	55,036	54,460	51,501	56,482	60,849	59,304	58,404	45,391	50,987	60,151	652,195	1,787	7,608,520
		(106)	(109)	(112)	(106)	(108)	(108)	(113)	(111)	(113)	(109)	(113)	(111)	(110)		
輸出	4,482,266	34,558	32,812	37,562	35,590	32,821	37,608	39,974	40,033	42,048	32,390	39,162	44,823	449,381	1,231	4,931,647
		(112)	(115)	(117)	(109)	(121)	(117)	(123)	(128)	(125)	(121)	(135)	(124)	(121)		
仮陸揚	2,474,059	16,114	16,146	17,474	18,870	18,680	18,874	20,875	19,271	16,356	13,001	11,825	15,328	202,814	556	2,676,873
		(95)	(97)	(102)	(100)	(92)	(94)	(98)	(87)	(90)	(87)	(73)	(84)	(92)		
取卸	7,381,733	73,973	71,154	77,030	79,770	76,819	80,430	88,303	81,808	79,641	65,778	69,311	87,406	931,423	2,552	8,313,156
		(116)	(113)	(124)	(116)	(113)	(112)	(112)	(108)	(109)	(111)	(109)	(110)	(113)		
輸入	4,918,604	57,301	54,904	59,093	60,345	57,940	60,995	67,297	62,557	62,983	52,681	57,457	71,759	725,312	1,987	5,643,916
		(124)	(119)	(132)	(122)	(122)	(118)	(118)	(116)	(115)	(119)	(120)	(119)	(120)		
仮陸揚	2,463,129	16,672	16,250	17,937	19,425	18,879	19,435	21,006	19,251	16,658	13,097	11,854	15,647	206,111	565	2,669,240
		(97)	(97)	(102)	(100)	(91)	(95)	(97)	(89)	(92)	(88)	(77)	(84)	(93)		
給油量(kl)	49,650,498	386,642	400,676	404,184	430,013	445,910	411,795	415,058	398,542	414,154	410,334	373,862	421,505	4,912,675	13,459	54,563,173
		(103)	(104)	(107)	(106)	(105)	(103)	(101)	(101)	(100)	(102)	(103)	(102)	(103)		

（注）1．（　）内数値は、前年同月比。速報値は概数である。　2．航空機発着回数は、回転翼機を除く。
3．国際線航空旅客数は、東京入国管理局成田空港支局の資料による。国内線旅客数は回転翼機によるものを除く。　4．航空貨物量は、成田税関支署の資料による。
5．日平均と（　）内の前年同月比の数値は小数第1位を四捨五入したものである。

ことなどがあげられると思う。

なお，開港以来の累計が4月8日に2億5千万人に到達したが，5千万人毎のそれぞれの到達期間をみると，5千万人(59.6.23)が6年1カ月，1億人(63.3.1)が3年9カ月，1億5千万人（2.9.28）が2年6カ月，2億人（5.2.5）が2年5カ月，そして2億5千万人(7.4.8）が2年2カ月と，近年の航空需要の増大が5千万人毎の到達年月日を短縮してきており，成田空港の果たす役割が，ますます重要になっていることがうかがえる。

(3) 航空貨物量

航空貨物量は円高基調および世界景気の回復傾向の影響から輸出入とも好調に推移し，平成5年度の実績(1,420,130トン）を約16万トンと大幅に上回り，1,583,618トン（昨年度比＋12%）と年度・暦年を通じて過去最高値を記録した。

平成6年度実績は開港時（昭和54年度445,766トン）に比べ約3.6倍となり大幅に伸びている。また，開港以来の累計では昨年9月に1,500万トンを記録した。なお1,000万トンは平成3年1月に記録している。

成田空港の貨物取扱量は世界ランキング統計で1986年以降世界第1位を保持しており，1992年では第2位のフランクフルト・マイン空港に約30万トンの差をつけ断トツの第1位となっているが，現在の成田空港の実績からするとこの順位は変わらないものと推測される。これは特に，最近の円高やメーカー等の海外工場シフトなどにより，輸入は平成5年度の約60万トンに対し，平成6年度は約73万トンと急増し，開港時（昭和54年度約14万トン）の5倍以上にもなっており，輸出においても昨年から増え始め過去最高値を記録するほどになっているほか，取卸の継越（仮陸揚）貨物においても高水準を維持していることなどによるものである。

(4) 給油量

給油量は従来の過去最高値であった平成4年度(4,778,664$k\ell$）の実績を13万$k\ell$上回り4,912,675$k\ell$（前年比＋3%）となり，過去最高値を記録した。

平成6年度実績は開港時（54年度1,724,921$k\ell$）に比べ約3倍となっているが，発着回数に比べて高い伸びを示しているのは，航空機の大型化や長距離路線の増加などが要因と考えられる。なお，開港以来の累計では5,500万klに迫る約5,460万klとなった。

5. 地域経済への貢献と影響

空港周辺は空港のもつ活力を生かしてさらなる発展を遂げる可能性を秘めている。成田空港の建設投資は，通常の公共投資をはるかに上回る空港関連投資が行われ，さらに民間投資を招き，これらの投資総額は巨大なものとなっている。この巨額の投資は地元に雇用の場をつくりだすとともに所得の増加をもたらしている。

因に，空港内で働く従業員は昭和59年には約2万2千人であったものが平成5年には約4万人と増え，事業所数も350から515と大きく増加している。

第8表　空港内事業所数及び従業員数

事業所区分		昭和59年10月1日現在				昭和62年3月1日現在				平成2年6月1日現在				平成5年6月1日現在				従業員数比較（対平成2年）	
		事業所数(社)	従業員数（人）			事業所数(社)	従業員数（人）			事業所数(社)	従業員数（人）			事業所数(社)	従業員数（人）				
			常雇	臨時	計		常雇	臨時	計		常雇	臨時	計		常雇	臨時	計	増減(人)	前回比(%)
官公署	国および地方自治体、公団等特殊法人	18	3,542	10	3,552	17	3,708	49	3,757	16	3,759	73	3,832	19	4,093	186	4,279	447	112
航空運送事業	航空会社	38	9,302	70	9,372	40	10,170	113	10,283	48	12,474	248	12,722	51	14,692	292	14,984	2,262	118
航空機サービス業	グランドサービス、機内食、航空燃料供給等	35	3,816	194	4,010	36	4,320	372	4,692	48	6,120	599	6,719	58	6,756	733	7,489	770	111
旅客サービス業	旅行代理店、旅客送迎、銀行、鉄道、バス等	45	719	62	781	45	740	120	860	51	1,200	341	1,541	62	2,374	541	2,915	1,374	189
貨物サービス業	貨物代理店等（混載業、通関業、貨物取扱）	75	1,320	71	1,391	75	1,619	133	1,752	99	2,380	414	2,794	104	2,459	462	2,921	127	105
その他のサービス業	報道、施設管理、環境衛生、警備等	53	1,386	67	1,453	60	1,681	98	1,779	70	2,059	134	2,193	91	3,215	584	3,799	1,606	173
物品販売業	（官公署等の従業員用のものを含む）	40	627	57	684	40	674	72	746	42	825	216	1,041	69	1,281	538	1,819	778	175
飲食業	（　〃　）	46	526	429	955	46	566	441	1,007	45	567	565	1,132	61	623	720	1,343	211	119
合計		350	21,238	960	22,198	359	23,478	1,398	24,876	419	29,384	2,590	31,974	515	35,493	4,056	39,549	7,575	124

(注) 1．調査対象事業所に所属する従業員のうち、空港内に常駐しない従業員は集計外とした
2．事業所区分は、兼業種を有する事業所については各事業所の主たる事業により区分した
3．事業所数は、1事業者1事業所として数えた

6. 空港と地域との共生のための地域との交流

成田空港問題の平和的解決を目指し，シンポジウムの後を受けて開催された円卓会議は平成5年9月から平成6年10月まで12回にわたり開催され，隅谷調査団から示された最終所見を全ての関係者が受入れ幕を閉じた。

これにより今後の成田空港の整備を民主的な手続きで進めていくことが合意された。現在，円卓会議合意事項実現のため，成田空港地域共生委員会など2委員会が活動を始めており，空港公団としてはこれら委員会の活動に誠実に対応することはもちろん，円卓会議で約束した騒音対策の充実強化等の施策を一つ一つ着実に実行していくこととしている。

そこで，空港公団は，成田空港が地域と融合し，真に地域の一員として信頼されるよう，地域との交流を積極的に推進している。いろいろな活動やイベントを実施したほか，地元主催の行事等にも積極的に参加している。また，周辺地域の方々向けに広報紙を発行している。

これは空港公団の役割や成田空港の現状などのほか，周辺地域の方からのご意見や隠れた名所などを紹介することにより，空港と地域の橋渡し的なものとして今後も発行していく予定である。

第9表　主な活動イベント等

事項および開催日等	内　　容
「成田空港パスポート」の発行 1月31日～	空港への関心と親しみを深め、空港をより一層身近に感じてもらうため、空港周辺の小中学生に「成田空港パスポート」を発行した。これを所持して空港を訪れた小中学生は、旅客ターミナルビルのお店で割引やドリンクサービスが受けられる。平成6年には、空港周辺23市町村の140校を超える小中学校に46,000部発行している。
「地域相談センター」の設置 4月1日～	空港周辺地域の方々が気軽に相談等においでいただくことができるよう環境を整えるとともに、これまでよりさらに丁寧で速やかな対応を図るため、空港公団では芝山町の協力をいただき、空港外の芝山町公民館千代田分館2階に「地域相談センター」を設置した。平成6年の集計によると、相談内容は、生活設計、環境問題および地域の振興等に関することなどであり、生活設計（移転、雇用等）に関するものが最も多く、約半数近くを占めている。
「SHIBAYAMA 桜コンサート」の後援 4月10日	平和で美しい地域を願い、その心を一つにして集い、明るく楽しい未来へ向かおうという趣旨で、「SHIBAYAMA 桜コンサート」が芝山町岩山地区において、芝山町長をはじめとする地元の有志の方々などの主催で、開催された。公団は、成田市、千葉県および運輸省とともに後援。有名なギタリストの演奏や参加者全員による童謡「ふるさと」の合唱などがあり、盛況裡に終了した。
第9回「新東京国際空港周辺児童書道・絵画展」の実施 5月13日～6月17日 （募集期間）	空港の発展は、地域の方々との調和が大切であるという点を重視し、千葉県教育委員会の後援、空港関連企業32社の協賛により、空港周辺地域の小学生による書道・絵画展を実施した。今回は左記の募集期間に書道が2県18市町村95校から、絵画が2県17市町村77校からそれぞれ応募があり、作品は合わせて2万3,000点にも及んだ。入賞作品は、7月22日から8月31日まで第1および第2旅客ターミナルビルに展示された。
千葉県民の日・中央行事への出展 6月11日・12日	千葉県民の日（6月15日）前の第2土曜日と日曜日には、毎年幕張メッセにおいて千葉県民の日・中央行事が開催される。空港公団は県民の皆様に成田空港の現状と役割などを知っていただき、地域と共に歩む成田空港の姿をPRする目的で出展した。両日で30万人の入場者があり、公団ブースにも多数の人が訪れ、大型テレビ画面やパネルに見入っていたほか、成田空港に関するクイズやサッカーゲームなどを楽しむ大人や子供たちで賑わった。
「豆記者」の空港取材 7月21日	毎年1回夏休みに空港近隣の小学6年生、5校20人を成田空港の取材記者として招待し、空港内の主要施設や関連施設の見学を通して空港とその役割等を知ってもらう目的で第6回「豆記者」空港取材を行った。「豆記者」取材の感想文は、8月18日～21日の千葉日報に掲載されたほか、公団広報紙「遊空（ゆうぞら）」にまとめ、空港周辺小学校等に配布した。
「空の日」記念行事の実施 9月20日～30日	平成4年9月20日の民間航空再開40周年を記念して、同年から毎年この時期に「空の日」、「空の旬間」が設けられ、全国各地の空港を核に各種イベントが開催されている。成田空港においては、航空会社、空港関係事業所をはじめ関係自治体および各団体の協力により、子供たちとジャンボ機との綱引き大会、招待体験飛行などのほか、初めて地元有志の提唱により「空港圏駅伝大会」が行われた。また、これに先立つ8月下旬から9月上旬に特別事業として空港周辺中学生がフランス・ドイツに派遣された。
「'95エアポートクリスマス祭」の実施 12月15日～25日	クリスマスの行事を周辺市町村の住民と空港関係者が一体となって演出し、地域の方々と空港の交流を一層深めることを目的として、エアポートクリスマス祭が昨年に続き開催された。12月15日から70本のクリスマスツリーが点灯され、22日の前夜祭と23日のチャリティイベントには、両日で1万2,000人もの参加者が第2旅客ターミナルビル中央広場に集い、各種催しを楽しんだ。

写真-2　第2ターミナルより第1ターミナル（高い高度から）

7.　おわりに

成田空港をより親しまれる空港とするために，私ども空港公団は様々な努力を続けている。より快適で効率的なターミナルとするために，現在，第1旅客ターミナルビルの改修工事を実施している。また，貨物施設については，その狭隘対策として第5貨物ビルを平成6年2月に供用開始し，そして現在第4貨物ビルを建設中である。空港内の駐車場については，第2駐車場南棟，北棟をそれぞれ平成5年3月，平成6年3月に供用している。また，貨物地区において，一部一般客用を含む業務用駐車場として貨物立体駐車場を平成7年1月にオープンした。また，空港公団は平成8年度に本社機能を現在の東京から空港内に移転・集約することを予定しており，一層地域との連携を深めていくこととしている。現在の空港施設の安全かつ効率的な運用に努めるとともに，空港と地域との共生の視点から，空港の整備に総力を挙げて取組んでまいる所存である。

今後とも引続き皆様方の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<海外ニュース>

JFK空港，国際線到着ビル（IAB）改築へ

ニューヨーク・ニュージャージー・ポートオーソリティ理事会は，懸案となっているニューヨーク・J. F. ケネディ国際空港の国際線到着ビル（IAB）の近代化及び改築のための準備資金として1,600万ドルの予算割当を決定した。計画・設計には14カ月かかるものと見込まれるが，これは43億ドルをかけたJFK国際空港再開発計画の主要部分となる。計画が予定どおり進めば，建設工事は1996年には開始されることになり，5年後には完成するものと見られている。ポートオーソリティは，同資金計画のうち8億ドルがこの計画に割当てられるものと予想している。

IABには40社以上の航空会社が入居し，1日約2万人，同空港の国際線旅客1,500万人（1993年）の約半分を取扱っている。現IABは130,060 m²，ゲート数14であるのに対し，新IABは3層で，総床面積120,770m²，ゲート数20となる。発券，手荷物取扱区域，税関，入管区域は統合拡張される。